

パズル専門出版社「ニコリ」
季刊誌40周年で記念企画
創刊から「40冊」復刻が人気に

日本で唯一のパズル専門の出版社「株式会社ニコリ」。同社が発行している総合パズル専門誌『パズル通信ニコリ』が昨年、創刊40周年を迎えた。それを記念して企画したのが、40年前の創刊準備号から39号までの「40冊」を復刻させるプロジェクトだ。クラウドファンディングの手法を使って参加を呼びかけたところ、目標を大きく上回る応募口数が集まった。今回の取り組みとともに、創刊当時のことなどについてもうかがった。

『ニコリ』創刊準備号の原本を持つ清水氏(左)と同号の復刻版を持つ溝口氏



『パズル通信ニコリ』は、日本初の総合パズル専門誌として、1980年春に創刊準備号を発行。同年8月に創刊号が定価200円で発売され、刊行頻度を変えながら昨年、40周年を迎えた。現在は季刊誌として3、6、9、12月に発行している(定価1100円/B5変型判)。

顧問の清水眞理氏は「創刊準備号は私と姉、鍛冶真起代表の3人で、まさに手作りで作った」と振り返る。当時は100部ほどしか作っておらず、今はもう原本がかろうじて残っているくらい。日本に今あるパズル雑誌の中で、最も歴史があるのがこの『ニコリ』だ。

それから発行を重ね、創刊40周年を迎えた。溝口透制作部部長は「これまで周年ごとに本を出したり、イベントを開いてきたが、今回は何をしようか考えていた。その時、デジタル・オンデマンド出版センター(DOD出版センター)で、少ない部数でも昔の本を復刻することができるという話を思い出し、初期の『ニコリ』を復刻してみることになったと明かす。

40周年の節目なので、創刊準備号から40冊をまとめて復刻することに決めた。『ニコリ』は不定期刊から始まり、季刊、隔月刊、月刊を経て現在の季刊に至る。40号がちょうど最初の季刊から隔月刊になった号。「今回復刻した40冊で、不定期刊から最初の季刊の号を全てカバーできるのも良かった」(溝口部長)。

復刻する40冊セットをどのように買ってもらおうか。クラウドファンディングの手法で、1口5万7750円(税込み)で参加者を募ることにした。ECサイト「STORES(ストアーズ)」に同社の直営売り場を設けており、その一つの商品として出品した。

20年9月発売の同誌172号を皮切りに、ホームページやツイッターで告知。年明けまで募集した。溝口氏は「最初は目標の40口に達するか心配したが、予想を大きく上回り、最終的には216口が集まった」と驚く。申し込み口数に応じて、それぞれ特典を用意していたが、200口までしか想定していなかった。結果的には全参加者に、全ての特典を付けた40冊セットが3月中に送られた。

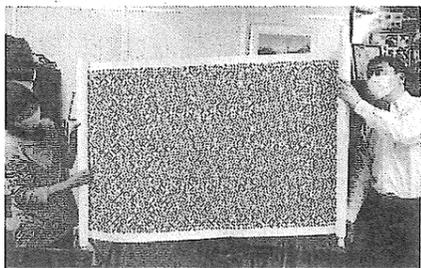
予想を上回る反響に、溝口氏は「長く発行しており、読者の入れ替わりもある。最近の読者が昔を知りたがったり、当時の読者がもう一回読みたいというニーズがあったので」と見る。清水氏も「古い読者でも、創刊準備号から40号あたりまでは『幻』の号。それを読みたい人もいたのでは」と語る。

「創刊準備号からの復刻という企画を思いつき、形にしてくれたことに感謝したい」と清水氏。40年前に始めた頃の『ニコリ』を改めて客観的に見ることができ、「当時の勢いを思い出す」と喜ぶ。溝口氏も「創刊当時はパワーに満ちあふれていたことを、再認識できた」とこの先を見据える。



『ニコリ』復刻40冊セットと特典商品

同社は、『パズル通信ニコリ』の発行も含め、年間約30冊のパズル本を発行している。鉛筆を使って解くパズルを「ペンシルパズル」と名付けた。取次は地方・小出版流通センター。定期購読する固定読者も多い。雑誌や地方紙などに数独をはじめとしたパズルを掲載したり、関連イベントでパズルについての講演を行ったりも。16年に作った世界最大のクロスワードパズル「メガクロス」は、ギネス世界記録に認定された。



盤面だけでもタテが約90cm、ヨコが約13mのメガクロス「巻物版」